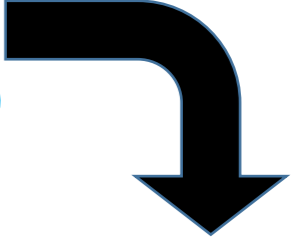


・ダンゴムシ土になったかな
 ・(花や木が) 少し大きくなったかも

ダンゴムシってどんな虫？

ダンゴムシ

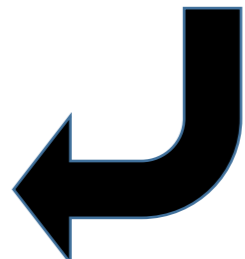
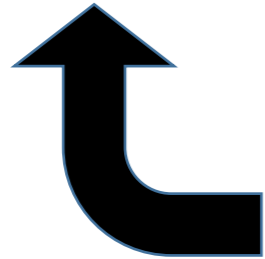
・飼ってみたい
 ・名前を付けたい
 ・何を食べるんだろう

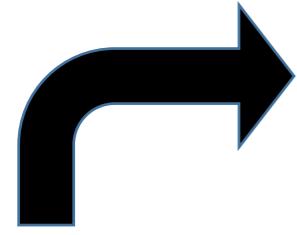


・振り返りについてのコメント
 元々虫が好きなクラスだったが、ダンゴムシを飼い始めたことでより興味を持ったように感じた。他の虫への興味も深まり、散歩先で見つけたものを図鑑で毎回調べるようになった。
 生き物が死ぬことに関しては、まだ難しい様子が見られたが保育者の言葉を理解してくれている子もいた。じゃがいも堀りにも行くので、虫などの生き物の働きを知り、食育にも繋がっていけばよいと思う。

・記録についてのコメント
 サークルタイムでダンゴムシの名前をみんなで決める。図鑑で調べ、ダンゴムシのお家には何が必要か分かり、散歩の際石や落ち葉を拾いに行く。当番の人がダンゴムシの家に霧吹きを行ない世話をする。
 公園ではダンゴムシを捕まえて遊ぶことが多かったが、ダンゴムシを育て始めてから、外でもダンゴムシの家を作ったり、「これは食べるかな」と様々な木の実を持って帰りダンゴムシにあげてみるようになる。室内遊びではダンゴムシの絵を描いたり制作をして遊ぶ。ケースの中でダンゴムシがうちをししたり、脱皮をしたり、赤ちゃんが生まれたりしていたので、定期的にケースから出して虫メガネで観察する。大きさの変化に気づき外でもダンゴムシの赤ちゃんを見つけられるようになる。
 5匹飼っていたうちの1匹が死んでしまっていたので、サークルタイムでどうしたらいいか話し合う。「埋める」「お家に帰す」という意見がでたので見つけた公園に埋めに行く。
 埋めることで元気になると思っていた子が多かったので、保育者から死んだダンゴムシは土になって、木や花の栄養になることを知らせる。ダンゴムシを埋めた公園に行くと「土になったかな」「(木や花が) 少し大きくなったかも」と考える子が出てきた。

・環境についてのコメント
 捕まえたダンゴムシを、虫かごに入れて観察できるようにした。
 図鑑を置いておくことで子ども達自ら生態について調べる姿があったので、図鑑の内容を掲示しいつでも見られるようにした。
 サークルタイムでダンゴムシの名前を決めたり、変化があればその都度話し合った。
 ダンゴムシが脱皮したり、赤ちゃんが生まれたりしたので、定期的に虫かごから出し、虫メガネを使って観察を行った。
 当番が毎日ダンゴムシの家に霧吹きをするようにした。





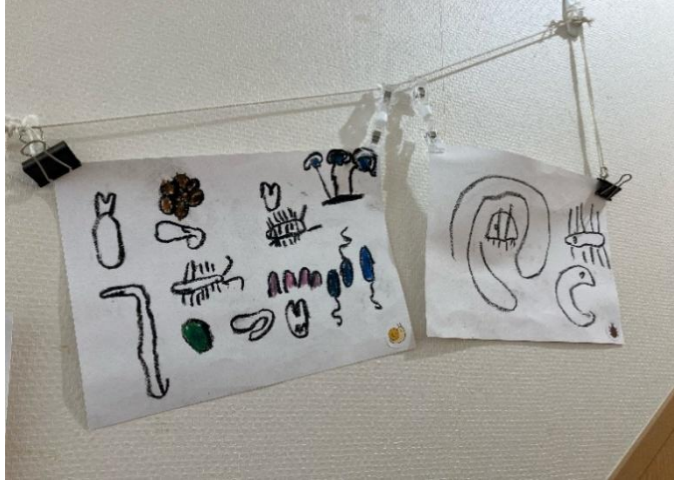
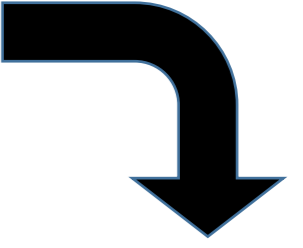
ころちゃん (ダンゴムシ)
どうなったかな

植物ってどうやって育つのかな？



土と植物

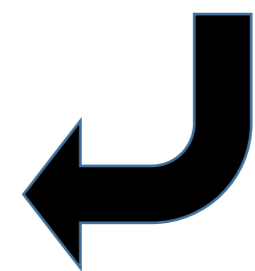
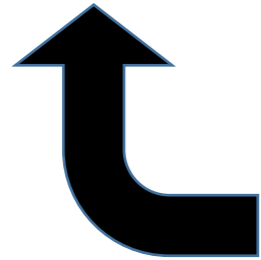
・ダンゴムシ土になったかな
・(花や木が) 少し大きくなったかも

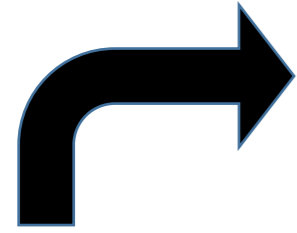


・振り返りについてのコメント
ダンゴムシと植物が繋がってきたときに、収穫遠足に行った。また、その後の食育活動で堆肥に触れる機会を設けたことで、子どもから「ころちゃんどうなったかな」という発言があり、より関連性が深まった。散歩に出掛けられるようになってきたら、ころちゃんを埋めたところの土や他の公園などの土を観察し、興味を深めていけるようにしていきたい。
また、園で行っている【元気に食べよう週間】を通して野菜にもより興味をもてるようになるのではないかなと思う。

・記録についてのコメント
ダンゴムシと植物の関連性を説明したタイミングで行事で予定していた収穫遠足（じゃがいも堀り）に出掛ける。畑につくと野菜に興味を示す以外にも「虫いるかな」と話す子がいた。その後食育活動で“はいチーズベジ”にお願いし『堆肥に触ってみよう！』という機会を設け、触ったり、においを嗅いだり、虫眼鏡でみたりする。植物が育つためには土だけでなく、日光、酸素、水が必要でその他にも植物の栄養になる堆肥が必要なのことが分かった。堆肥の中には小さな虫がいて、様々な虫たちが植物を育てる手助けになっていることを知り、絵に描いて表現してみる。虫と植物が関連していることに気づいたようで「ころちゃんどうなったかな」と、以前公園に埋めたダンゴムシのことを思い出していた。

・環境についてのコメント
じゃがいも堀りに出かける。じゃがいもを自分達で洗い給食室へ届ける。食育活動で堆肥に触れる活動を行なう。堆肥に含まれる微生物を絵で描いて表現し、掲示した。

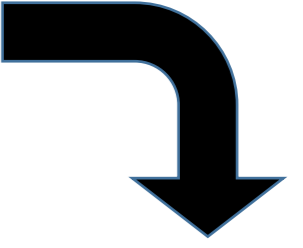




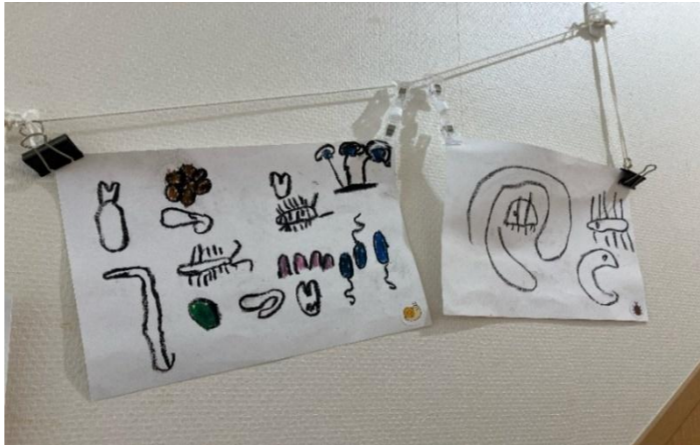
〇〇はどこから来るのかな

堆肥でどんな野菜が育つか？

ころちゃん（ダンゴムシ）
どうなったかな



堆肥と野菜



・振り返りについてのコメント

ほうれん草の栽培は思ったような結果にならなかったが、栽培を経験することで食事への意欲が増し、苦手な野菜も頑張って食べようとする姿を見ることが出来た。農家さんとの対話を通して、農家で作った野菜がお店や保育園に届けられていることを知り、八百屋に買い物に行くきっかけとなった。給食室に頼まれた野菜だったが、どんな栄養があるか、どの給食に使われるかいつも以上に興味を示していた。また、絵本を通して様々なものが手元に来るまでの過程を知り、ありがたみを感じる機会となった。

室内遊びの中でお店屋さんごっこをする姿が多く見られた。野菜を販売する機会を得られることになったので楽しんで行いたい。

・記録についてのコメント

堆肥に触る食育活動後に、堆肥をもらい、その堆肥ところちゃんを埋めた公園の土、他の公園の土にほうれん草の種を植え、どの土が野菜が育ちやすいか実験してみた。結果は上手くいかなかったが、公園の土を触ったり見たりして比べ「冷たい」「やわらかい」「木が入っている」と違いに気づいていた。「どこが早く芽が出るか競争だ」と観察も楽しんでた。

【元気に食べよう週間】での食育活動で“はいチーズベジ”による『食育出前授業』を受け野菜に触れる経験をした。また、農家とZOOMで交流をすることで、野菜を収穫する機械を見せていただいたり、野菜の美味しい食べ方を教えてもらった。

農家からの話で、育てた野菜が園やスーパーなどに届けられると知り、後日届いたサツマイモを見たり、どんな野菜が八百屋には届けられているかを見に行き、実際に買い物も行なってみる。

『どこからきたの？お弁当』という絵本を読み様々なものが手元に来るまでの過程を知り、給食を食べながら「このパンはどこから来たのかな」と考える姿も見られた。

・環境についてのコメント

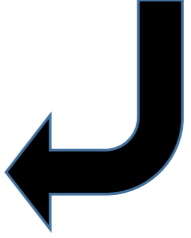
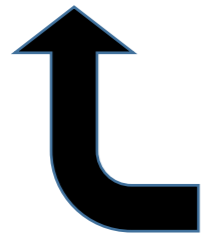
堆肥と公園の土を比較する。（石が多いところ、ころちゃんを埋めたところ等用意する）

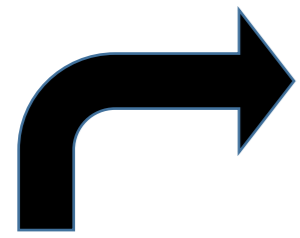
【元気に食べよう週間】で食育を行う。また、給食室で野菜を切っているところを見学する。

食育活動で農家との交流をZOOMで行なう。

八百屋見学を行ない、八百屋にはたくさんの野菜が売られていることを知る

世の中の食べ物の流れが描かれている、『どこからきたの？お弁当』の絵本を読む。





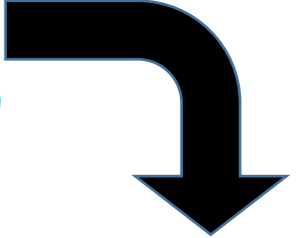
お家でこうやって
食べたよ！

農家さんが育てた野菜を売ってみよう！



野菜販売

〇〇はどこから来るのかな



・振り返りについてのコメント

自分達も食材が手元に来るまでの過程に参加することで、食材へのありがたみを感じる良い機会になった。

野菜販売会の次の日にはどんな料理にして食べたか話しをする子が多かった。また初めて見る野菜にも興味を持ち、食べてみたことなども話をしていて、家庭での食育のきっかけになったようだった。食事への意欲も増しているようだった。今後も食材のありがたみを感じながら食事を摂れるように関わっていきたい。

・記録についてのコメント

野菜販売会を企画し、八百屋に見学に行ったり、看板やおすすめカードを作成した。また、室内にはお金の玩具や電卓などを置き、楽しみながら野菜販売会に向けての準備が行えるようにした。

野菜販売会では、たくさんの野菜の中から自分でおすすめしたい野菜を選び、カードを置き、買いものにきた保護者に積極的に勧める姿が見られた。遊びでやっていたお店屋さんごっこの活動が生き、接客を楽しんでいた。

『買った野菜は苦手なものでも家で食べてみてね』と声をかけると次の日はどうやって野菜を食

・環境についてのコメント

食育活動で野菜販売会を行う。それに向けて、おすすめカードや看板を作成する。また当日の手順が分かるように流れのプリントを作成する。

子ども用のエプロンを用意する。

お店屋さんごっこが充実するように、お金や電卓を用意した。

